

昆虫だらけの夏日

真夏日に、クヌギやコナラが多い広葉樹林を歩いていると、あまり探さなくても昆虫を見掛けることができます。無数のクモの巣を突き抜けていくと、樹皮に止まっている不思議なガ、樹液を吸いに来ているカナブンやスズメバチの仲間、枯れ枝などで歩き回るカミキリムシやキマワリ、足元のふんに集まるヒカゲチョウの仲間など、さまざまな昆虫に出合えます。日本の夏は昆虫パラダイスです。

スペインにいた頃は、真夏に山を歩く人なんて、私の様なマニア以外にほとんどいませんでした。気温は45度を超える時もあり、木の密度の高い日本の森と違い、日陰となる場所が少ないので、山登りは常に脱水との戦いです。そんな中でも、砂場や砂利斜面に生息する珍しいカナヘビや乾燥地のヘビの仲間、さらにハゲワシやイヌワシなどの大型猛禽類を見て楽しめましたが、昆虫は日本に比べて圧倒的に少ないです。バッタの仲間やサソリは多いのですが、日本の森林性の昆虫であるクワガタやカブトムシなどの種類は、乾燥地である南スペインでは見られません。そのため、日本に来た時は、スズメガや美しいヤマユガなどの大型の



あきる野で見られるキボシカミキリ。さまざまな植物を好みますので、見つけるのはそれ程難しくありません。

ガやセミの音の迫力にびっくりしました。現在は、これらの昆虫にも慣れましたが、森の中を歩いてミヤマクワガタやキボシカミキリの様な格好い昆虫に出会うとテンションが上がります。

個人的に、クワガタなどの甲虫、チョウ、トンボ等が好きで、特に南スペインで楽しむことができないカミキリムシにはまっています。あきる野では、これまで77種類のカミキリムシを確認していますが、まだ見てない種類が生息しているので、この時期は新たな出会いを期待しながら巡視、作業、調査、イベントなどのレンジャー活動を暑い中で続けています。楽しみや期待があるから、私たちは日々頑張っって前進していける生き物なのでしょう！

(パブロ)